

株 式 会 社 エ ー ワ ン 精 密

平成26年6月期・第2四半期決算説明資料

平成26年6月期・第2四半期決算説明資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 第2四半期決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

13,500社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

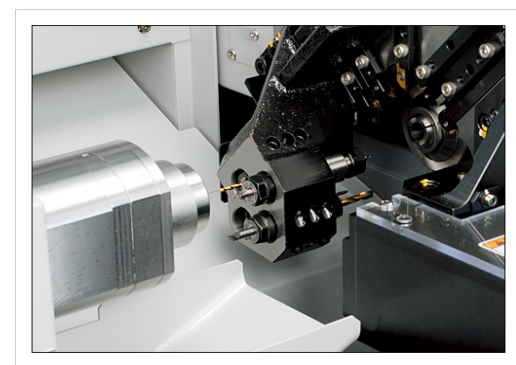
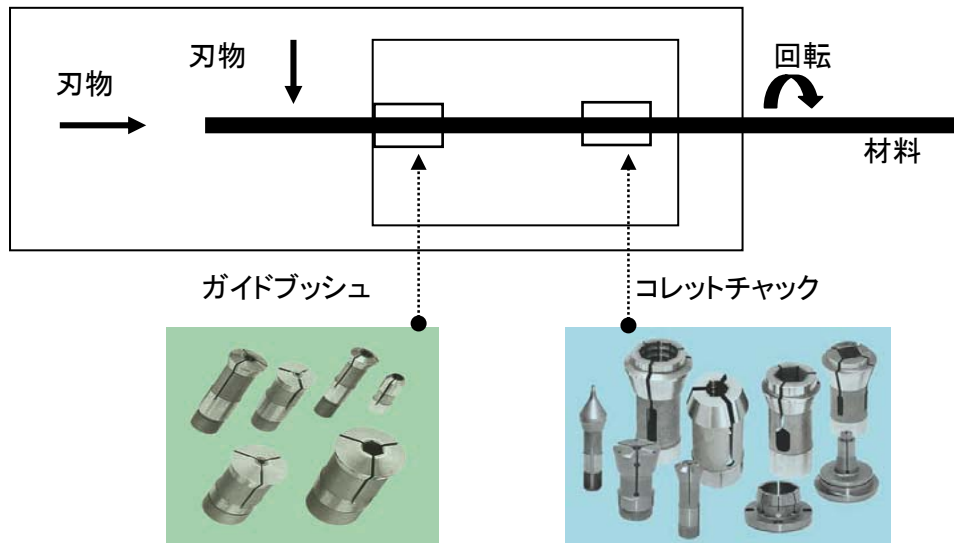
NC旋盤 2,280億円(2013年生産額) 15,600台
うち CNC自動旋盤約 1,082億円(2013年推定生産額)

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 864億円(2013年生産額) 3,762台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	3,022億円(2013年生産額)	19,070台
NCフライス、中ぐり盤	153億円(2013年生産額)	687台

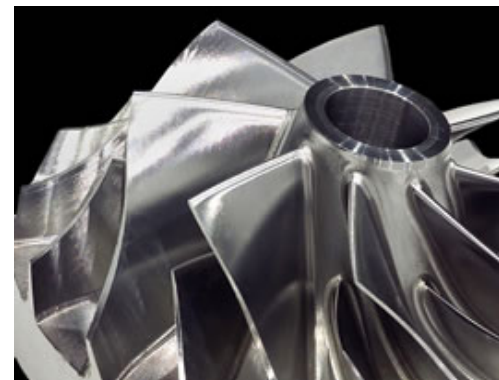
使用される工具

超硬エンドミル	351億円(2013年生産額)
超硬ドリル	260億円(2013年生産額)
その他超硬工具	356億円(2013年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

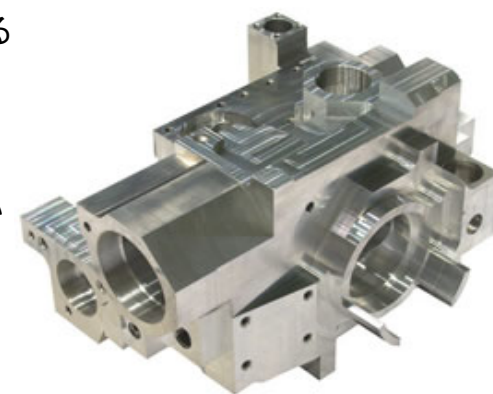
加工部品のイメージ



- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型



自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用するカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

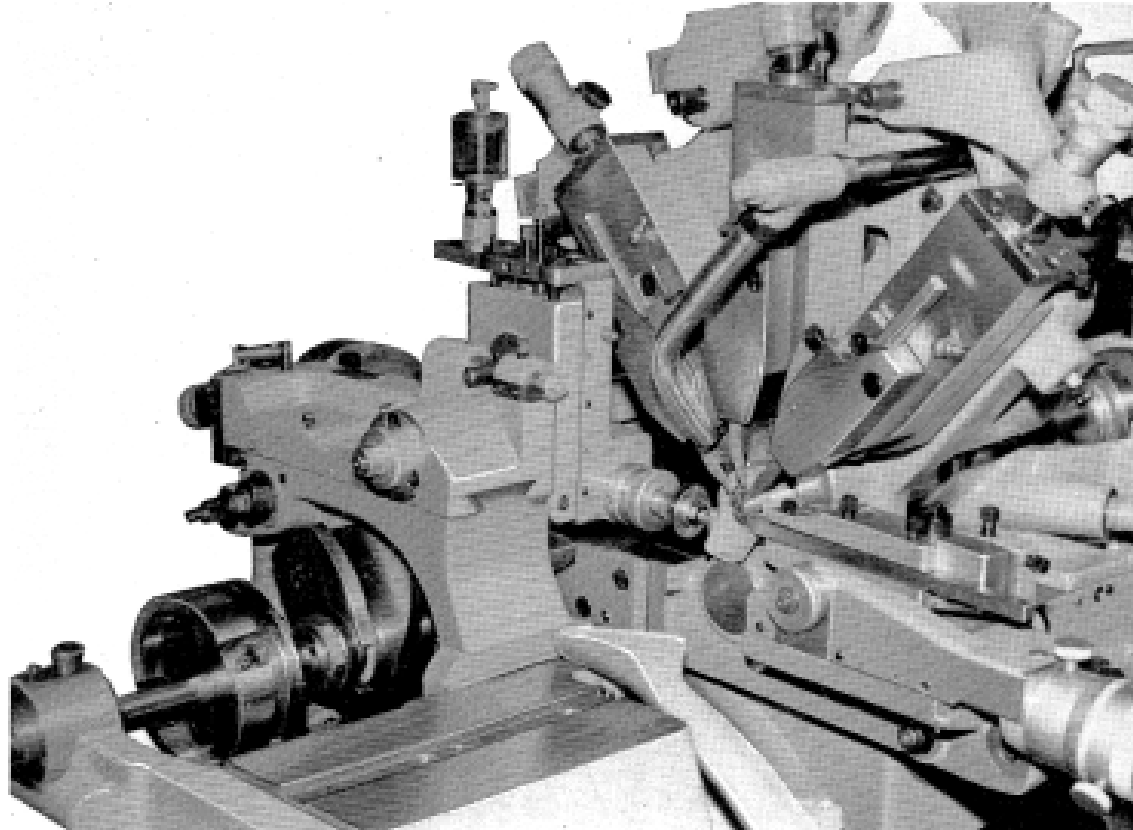
製品写真



カム式自動旋盤(型番:NS-P1053)



カム取付後写真



平成26年6月期・第2四半期累計期間 決算概要

売上 為替が100円台前半に定着し、輸出や海外生産が好調な企業が増加、国内も景況感が好転し、国内製造業の機械稼働率が上昇傾向を示す。投資減税が補助金の後押しもあり国内設備投資も増加。

北米の消費市場が好調。中国での日本製品売上も回復しだし、国内消費も堅調に推移。これらの要因で当社の受注も堅調に推移。

原価 設備投資が通常のペースに戻ったことで減価償却費が減少。

利益 固定費減少傾向で売上高営業利益率が回復傾向。

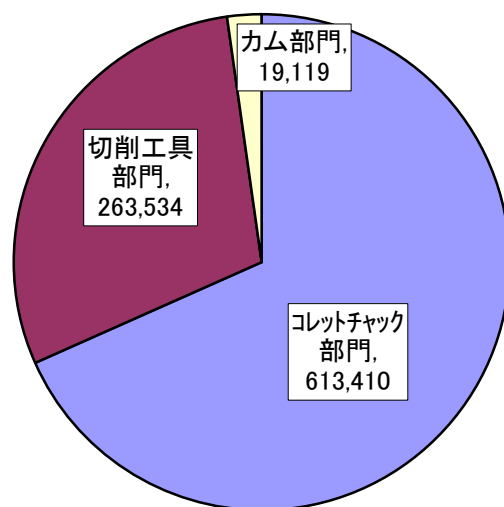
人件費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
労務費	332,264	345,702
コストに占める比率	48.0%	50.6%

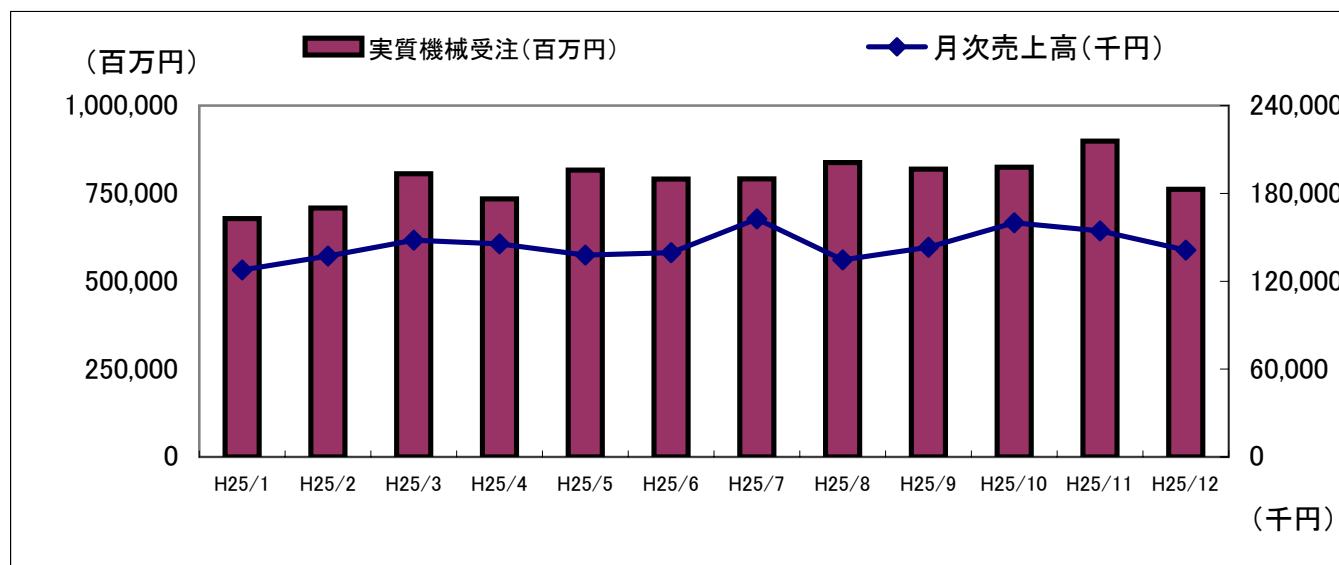
設備投資額と減価償却費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
設備投資額	63,635	98,641
減価償却費	138,261	117,406

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成26年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期(累計)			当第2四半期(累計)			増 減 要 因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	612,779	68.6%	94.7%	613,410	68.5%	100.1%	・北米・中国の消費が好調、日本国内も堅調に推移。昨年11月より当社受注も増加傾向。
切削工具	260,382	29.2%	106.7%	263,534	29.4%	101.2%	・昨年後半より国内設備投資も回復傾向を示し、当セグメントの受注も堅調となる。
自動旋盤用カム	19,871	2.2%	73.6%	19,119	2.1%	96.2%	・カム式旋盤の現存台数が限定されており、当セグメントの受注は減少傾向。
合 計	893,034	100.0%	97.3%	896,064	100.0%	100.3%	
売上原価	556,018	62.3%	102.8%	543,981	60.7%	97.8%	・主に減価償却費が減少したことで原価率低下。
売上総利益	337,015	37.7%	89.3%	352,083	39.3%	104.5%	
販売費及び一般管理費	138,150	15.4%	97.8%	139,737	15.6%	101.1%	
営業利益	198,865	22.3%	84.2%	212,345	23.7%	106.8%	・固定費が減少したことで利益率が改善。
経常利益	212,890	23.8%	83.1%	224,904	25.1%	105.6%	
当期純利益	129,312	14.5%	90.8%	168,111	18.8%	130.0%	・投資有価証券売却益を計上し利益額が増加。

平成26年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	3,987,543	50.4%	4,150,336	51.1%	・前期の当期純利益計上により増加。
売上債権	361,950	4.6%	391,613	4.8%	・11、12月に増収基調となり売上債権が増加。
棚卸資産	215,849	2.7%	203,705	2.5%	・期末にかけての売上増により棚卸資産減少。
その他流動資産	22,883	0.3%	21,872	0.3%	
固定資産	3,320,544	42.0%	3,359,125	41.3%	
資 産 合 計	7,908,770	100.0%	8,126,653	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	12,528	0.1%	13,057	0.2%	
その他流動負債	234,789	3.0%	223,815	2.7%	
固定負債	386,251	4.9%	446,183	5.5%	・主に保有投資有価証券の価格上昇により繰延税金負債が増加。
負 債 合 計	633,569	8.0%	683,055	8.4%	
純資産合計	7,275,201	92.0%	7,443,597	91.6%	
負債・純資産合計	7,908,770	100.0%	8,126,653	100.0%	

平成26年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	対前年同期比 増減額	主 な 増 減 要 因 (対 前 期 比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	443,083	212,690	▲ 230,393	主な増加要因：税引前当期純利益 270,556千円 減価償却費 117,406千円 主な減少要因：法人税等の支払額 126,260千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,247,228	▲ 402,496	844,732	主な減少要因：定期預金の純増減額の増加 450,542千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 104,942	▲ 97,943	6,999	主な減少要因：配当金の支払い額 97,943千円
現金及び現金同等物の増減額	▲ 919,087	▲ 287,748	631,339	主な減少要因：定期預金の純増減額の増加 450,542千円
現金及び現金同等物の期末残高	396,817	282,853	▲ 113,964	

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門

事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

競合状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭（納期・品質で不安定）

当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

今後の事業展開 ～ 切削工具部門

事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

競合状況

- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

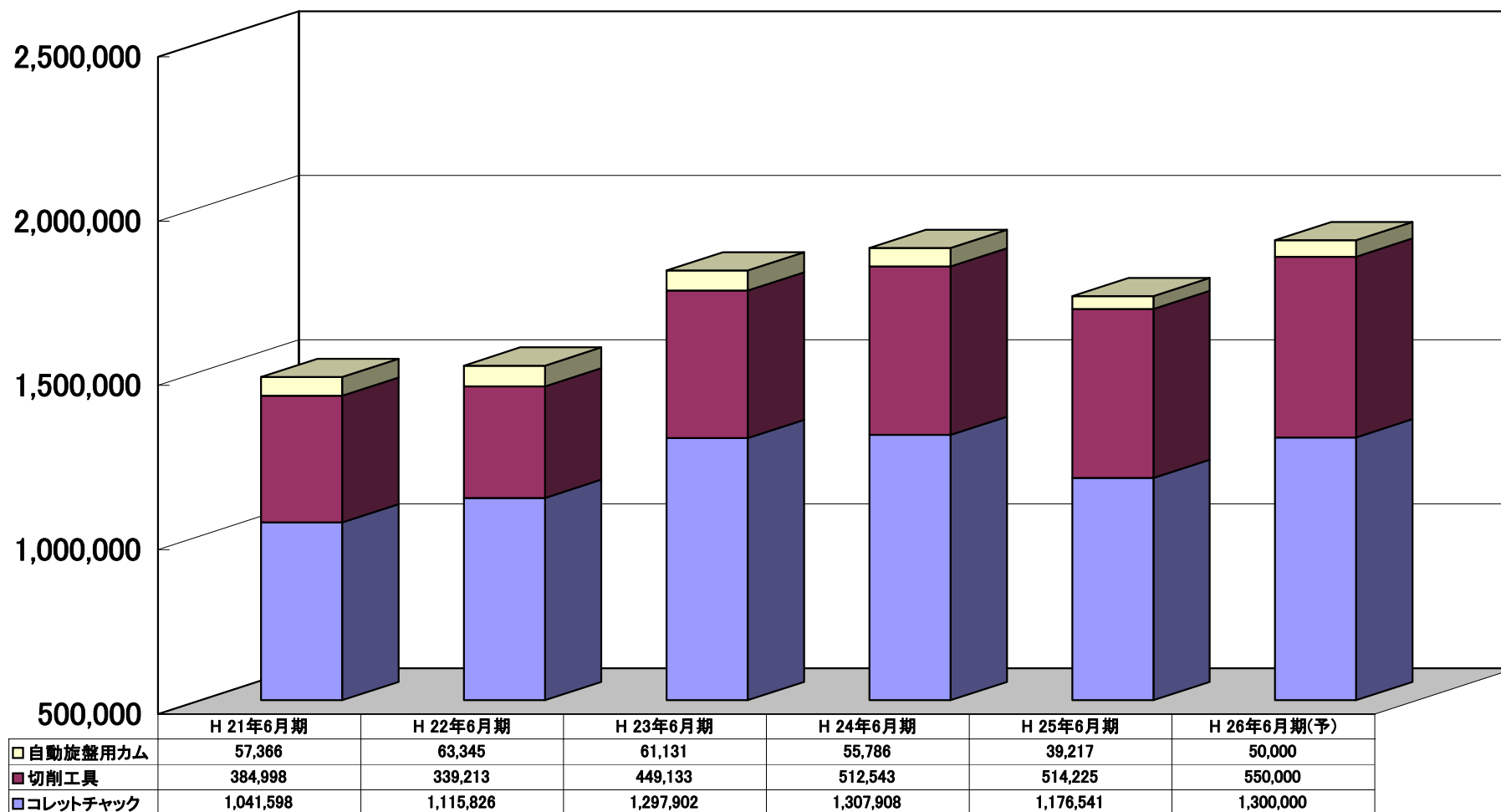
- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

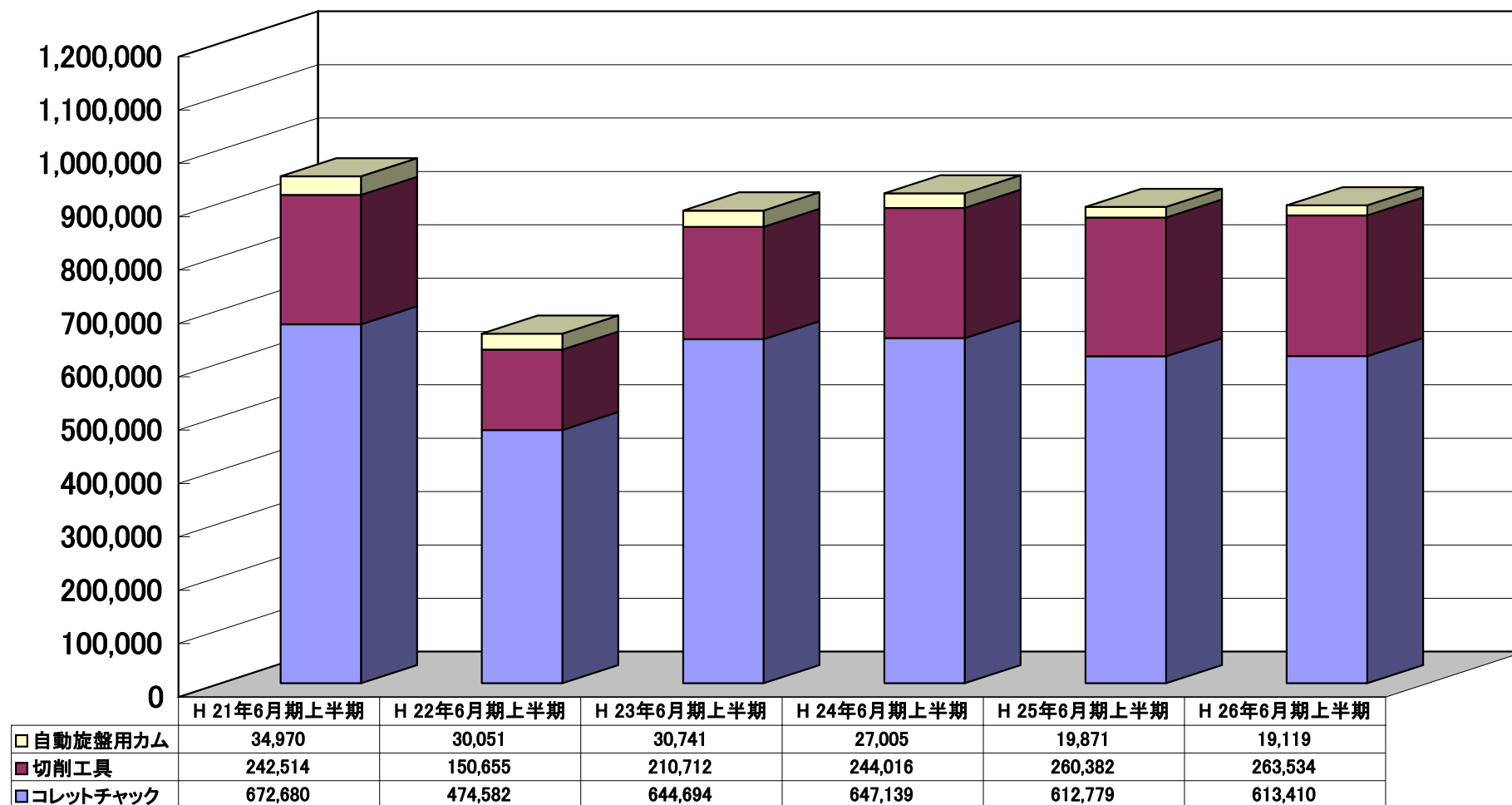
部門別売上状況

(単位：千円)



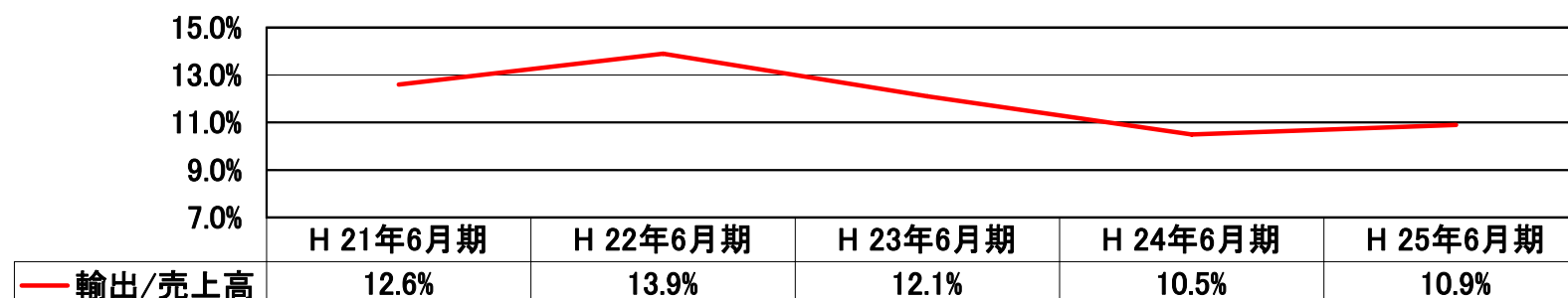
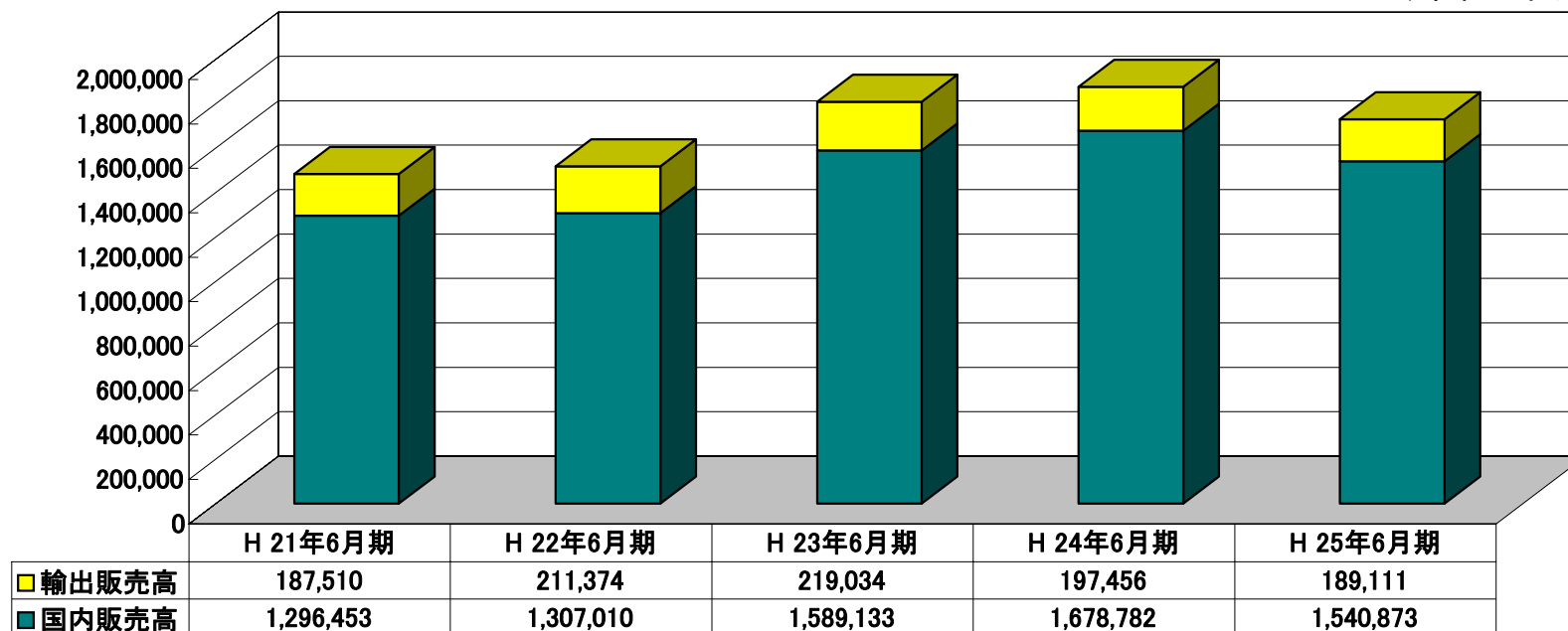
上半期部門別売上状況

(単位：千円)



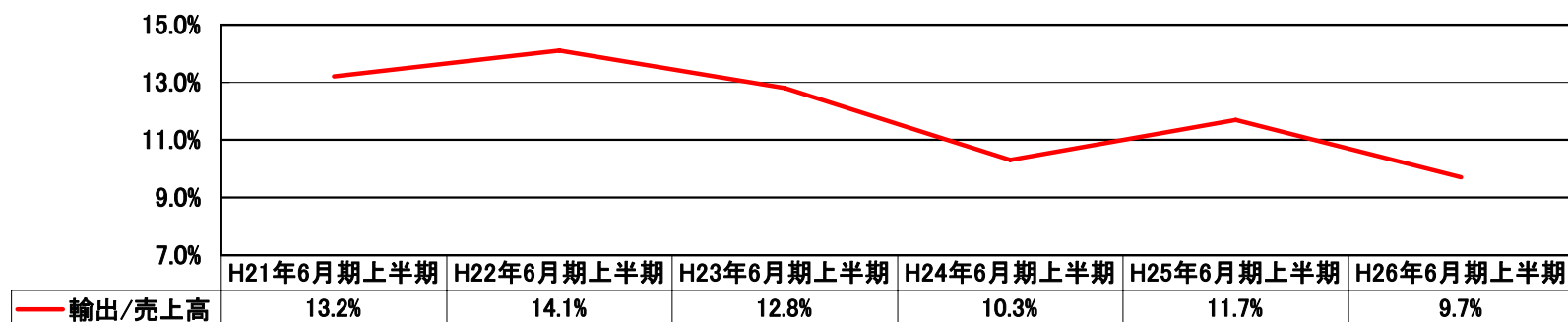
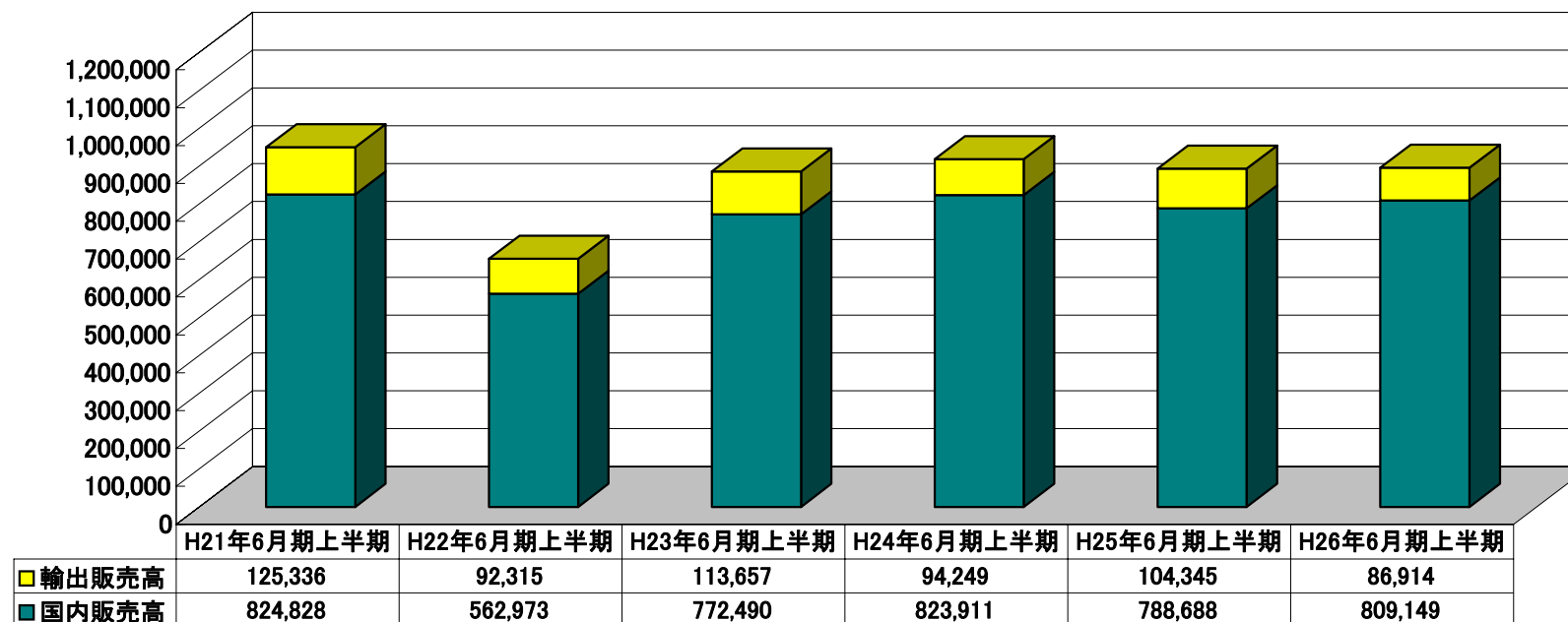
輸 出 売 上 状 況

(単位：千円)



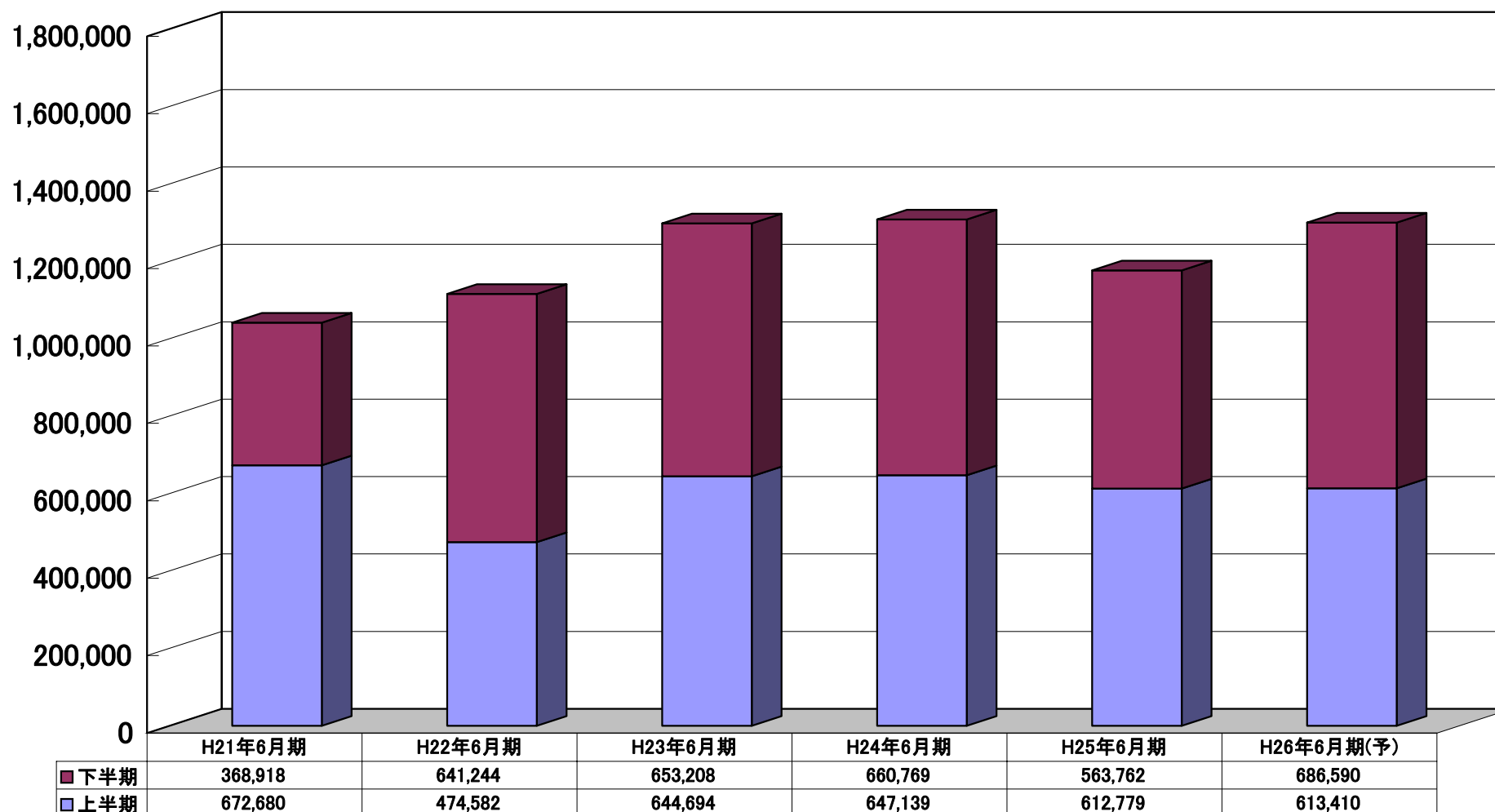
上半期輸出売上状況

(単位：千円)



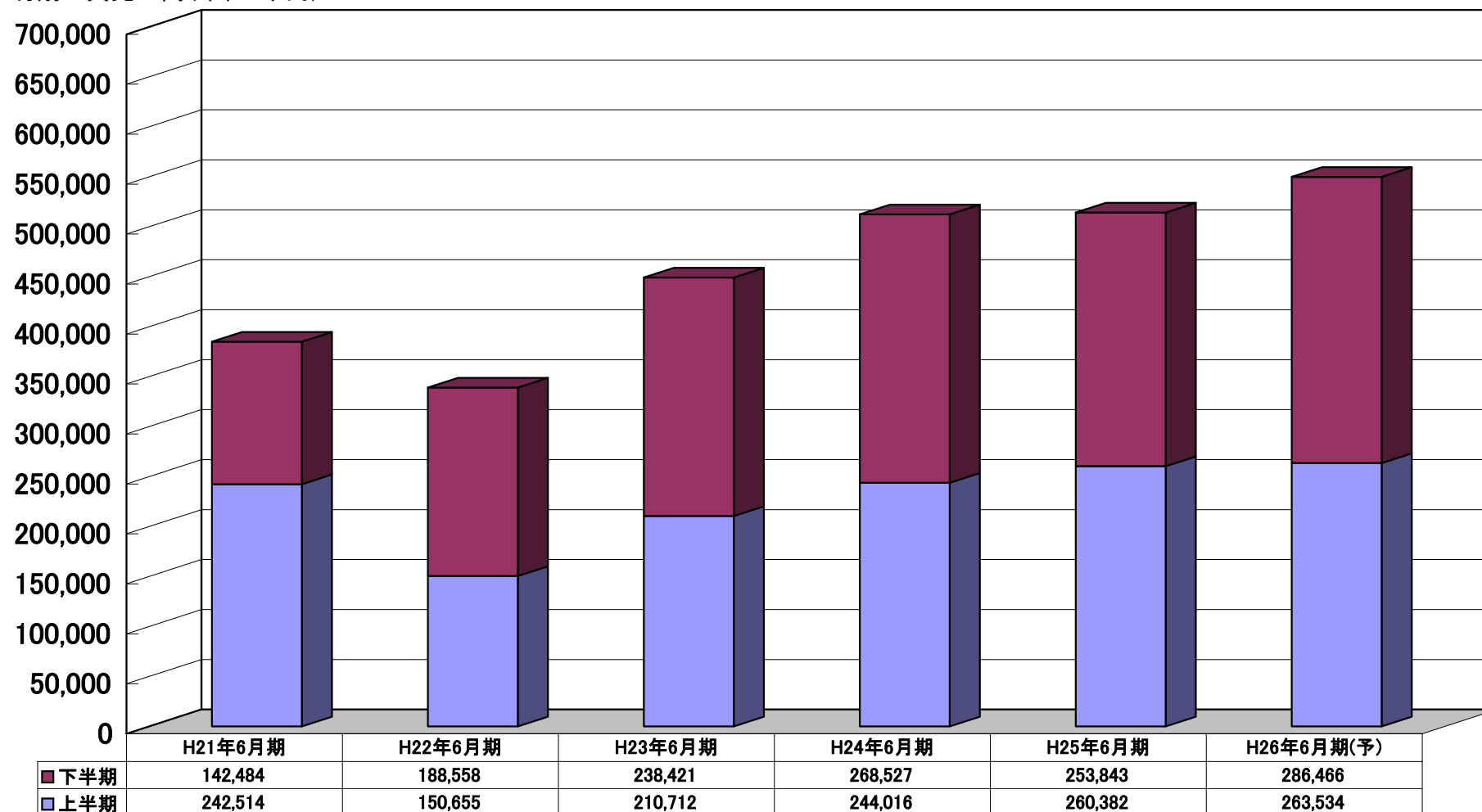
部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位: 千円)



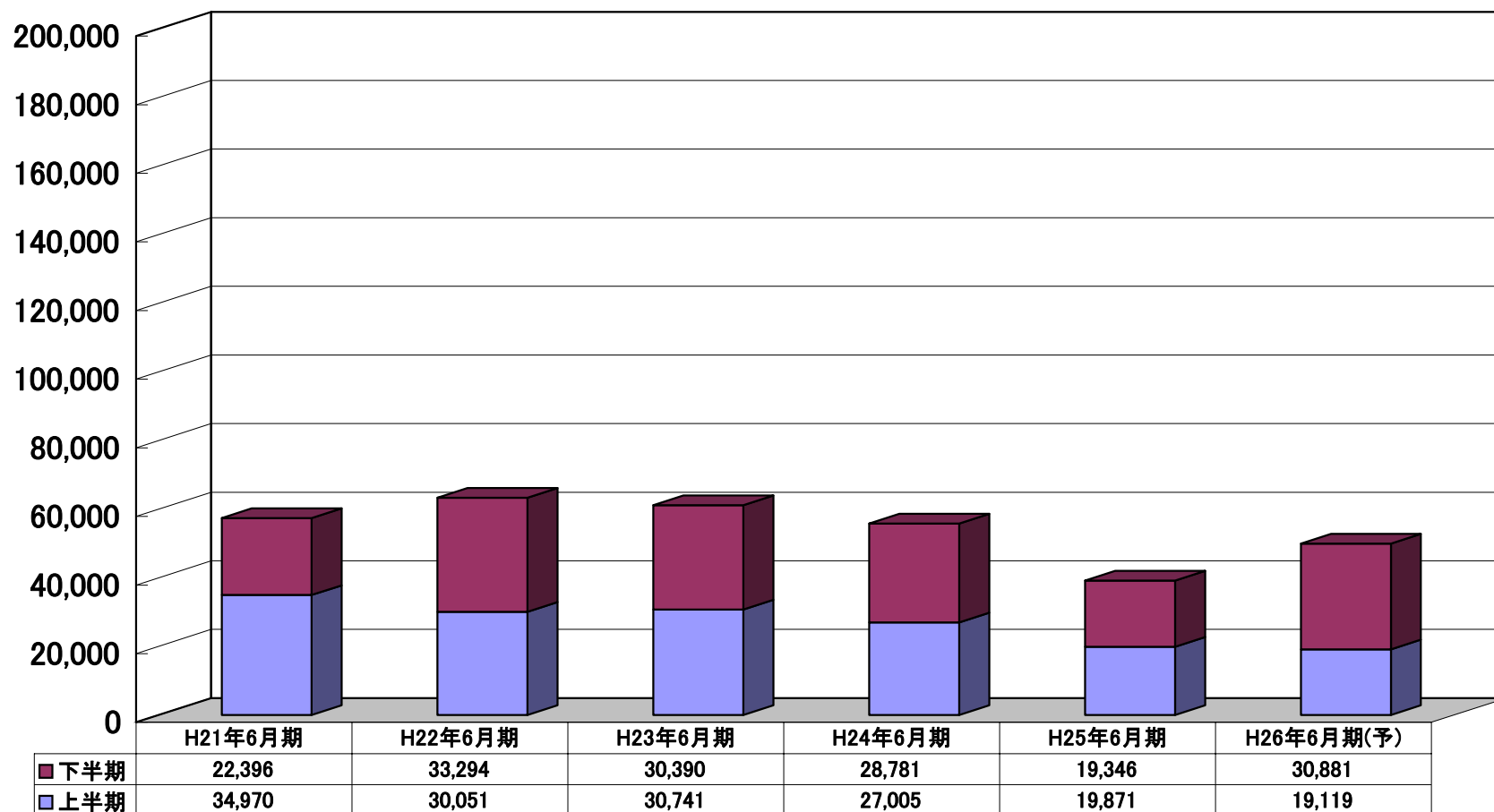
部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



設 備 投 資 と 減 価 償 却 実 施 額

設備投資額 (単位:千円)	H22年6月期	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期
上半期	163,281	38,580	427,441	63,635	98,641
通 期	225,010	133,667	532,629	77,397	200,000(予)

減価償却費 (単位:千円)	H22年6月期	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期
上半期	111,069	104,406	132,904	138,261	117,406
通 期	233,795	216,881	291,159	278,748	232,264(予)

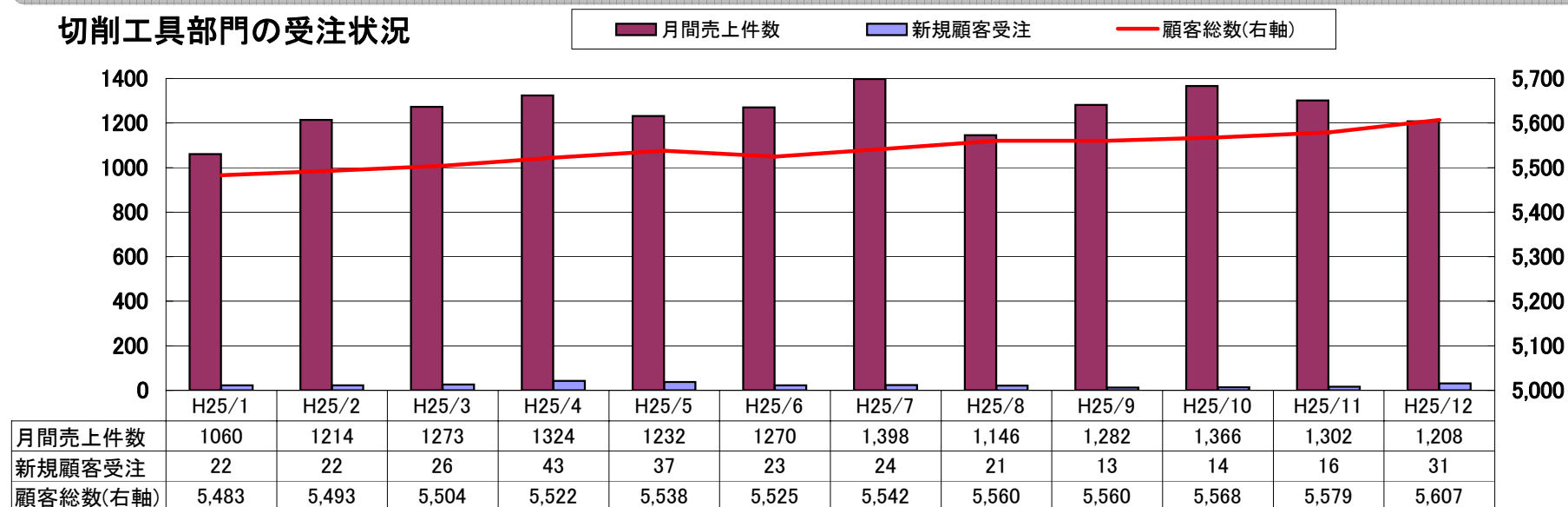
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

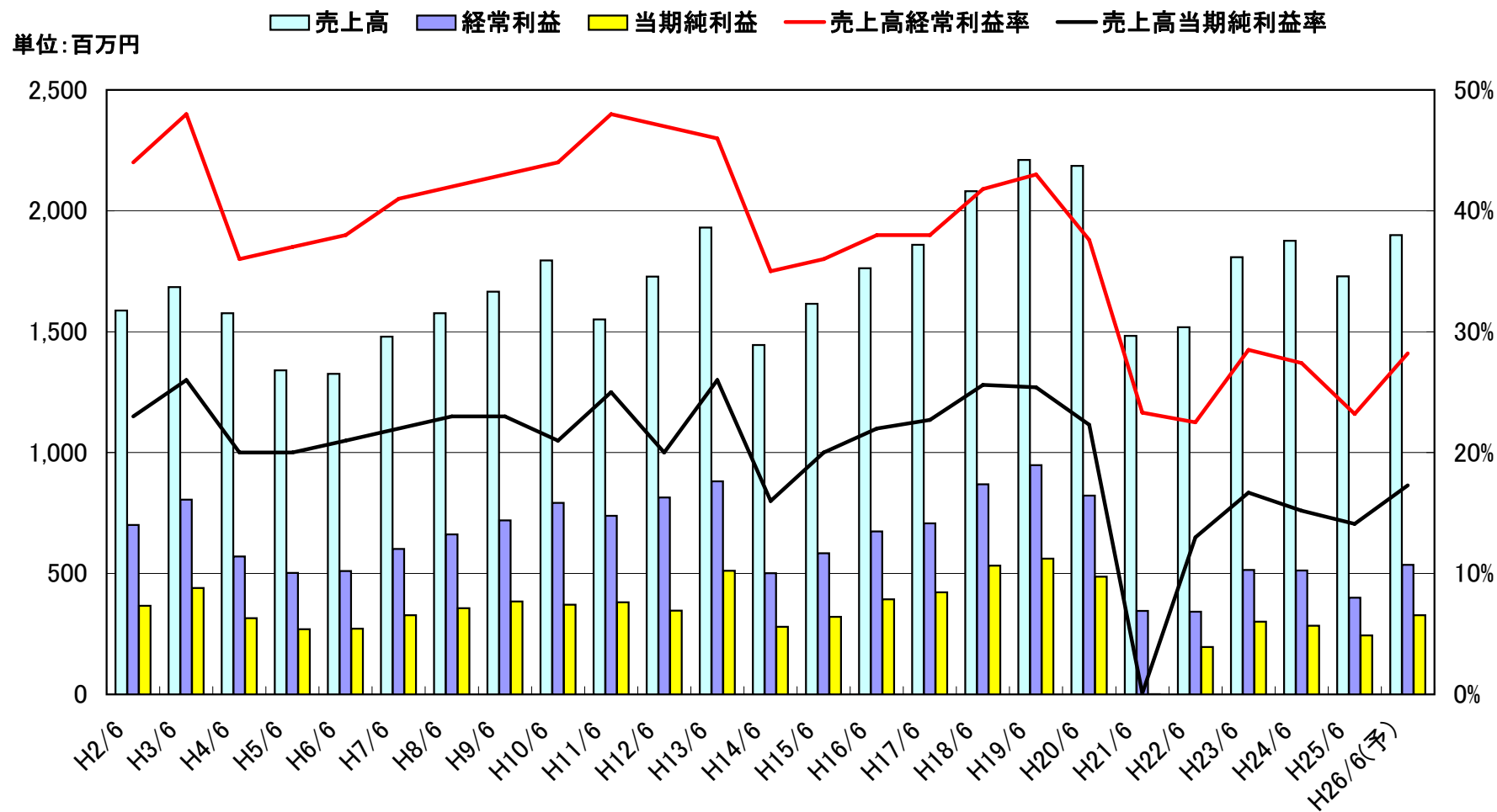
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



業績の推移



実質機械受注と月次売上高

